

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29（2017）・1205 NO52

校長 伊波喜一

届かない 声無き声を 聞きとらん 社会整備の 枠を固めん

2016年度に児童相談所が児童虐待について対応した件数は、12万件です。一日あたりにすると330件。このうち、一時保護されるのは2万件。残りは家庭の中での生活を続けざるを得ません。誰でも虐待が悪いことは知っています。それでも、経済的な不安や精神面への過重な負荷がかかれば、子どもに目がいなくなりかねません。そこに親のイライラが重なり、怒りを子どもにぶつけ、虐待へとエスカレートしていくケースが後を絶ちません。その事態に対応する児童福祉司は、全国に3千人しかいません。専門性がある人財を増やしていかなければ、福祉司としての専門性を生かすことが出来ないのではないかと、そう危惧します。働き方改革を進めていくことは、今後の社会の主流となります。業務内容の見直しなど、見直すところはいくつもあるでしょう。しかし、必要なことを必要に応じて行うには、それ相応に人材を確保しておかなくてはなりません。このような社会整備を、どの分野からどの順番でどの程度行っていくのか、検討していかななくては手遅れになってしまいます。